



ERFC Newsletter

ユーノスロードスターファンクラブ通信 2011 vol.1

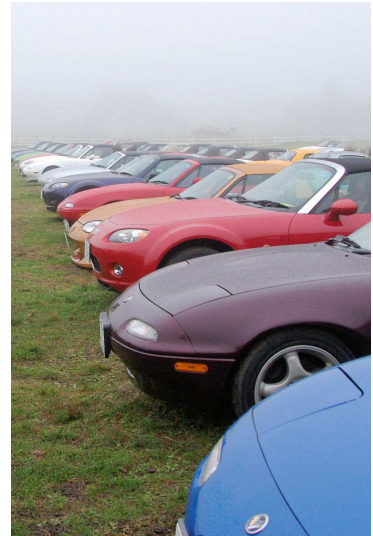
今年もやります！ERFC 清里ミーティング！の号 今年の『ERFC清里ミーティング』は一味違ってます。…たぶん。

あの日、そしてあの日以来、何かもかもが大きく変わってしまい、普段どおりに過ごしているつもりでも些細なことにまでビミョーな違和感を感じてしまうきょうこの頃です。昨年は台風直後のドタバタの中で今後の開催についていろんなご意見を伺いましたが、それ以上に考えることが多くなってしまいました。しかし、いろんな考えやご意見があろうかと思いますが今年も、いつも通りとはいきませんが、清里ミーティングを開催いたします。

どんなふうに開催するべきか、何をするのがいいのか、なかなか考えがまとまらない中で、ささやかながら復興支援をということで、今年の清里ミーティングはチャリティーオークションをメインに据えて開催することにしました。しょせん自己満足にしかならないかもしれませんが、せっかくあれだけの人が集まるのだから少しでも役に立てられれば、と思っています。

詳しいことは別項をご覧くださいととして、ご参加いただく方には多少のご負担をお願いすることになりますが、ご賛同のうえご参加いただければ幸いです。また今年も清里の気持ち良い空気の中でみなさんにお会いできることを楽しみにしています。今年には台風が来ないことを祈って。

(ユーノスロードスターファンクラブ会長 ひでまる)



そんなわけで今年のERFC清里ミーティングは11月6日の開催。予想外な形で例年と違うスタイルのイベントになります。**募集開始は10月を予定。詳細は次号を待て！**ってことで、以下に決まっているいくつかのことをご報告。

「みんなでやりましょ！チャリティーオークション」

「元気ですかー！」の一言が、ネタでもなんでもなく、ただ重かった今年の前半でした。

これを書いているのは7月ですが、あの大地震からもう4ヶ月になるのですね。皆さん、お元気でお過ごしでしょうか？

埼玉県にある我が家には幸い大きな被害はありませんでしたが、初めて経験する大きな揺れにとにかく驚きました。そして、信号が消えた道路で運転するのもこれまた初めて。職場から帰宅したのはまだ明るいうちでしたが、大きな交差点を通過するのはものすごく緊張しました。でも、地震直後の混乱の中、近隣の方々が自発的に交通整理をして下さったおかげで、事故を起こさず目撃もせず無事に帰宅することができました。本当に有難かったです。

今回はワタシが運転する立場でしたが、もし逆だったら同じことができたかどうかわかりません。それどころか白状すれば「自分と家族のことで手一杯で、思いつきもしなかった」というのがホンネです。実に恥ずかしいですね・・・

でも、ドライバーのひとりとして、そういう心構えもしておかなくては。水や電池だけでなく、こういう「ココロの防災袋」の準備も必要なんだと思い知らされた2011年の春でした。

この大きな災害があった今年、清里ミーティングはメイン企画として「復興支援チャリティーオークション」を開催します。

皆さんにお持ちより頂いた品を会場でオークション！落札された金額は全て日本赤十字社(予定)に寄付させていただきます。

○当日のイベントの流れは、こんな感じを予定しています。

1. 出品したい品をお持ち下さい。

ロードスター関連のものはもちろん、自作のグッズや実用品、清里ならでは！の品などなど、何でも結構です。

ただし、落札された方が（たぶんロードスターで！）持ち帰られることを考慮して下さいね。

また、食品・生き物・危険物は勝手ながらご遠慮させていただきます。

「これって大丈夫かな？」と思われるものは、事前にご相談下さい。

2. 皆さんの前でその「モノ」に関して熱く語っちゃっていただきます。

いかに「語り」で落札価格を上げられるか、腕の見せ所です！

でも自信がなくても大丈夫！ERFCのスタッフがサポートします。

3. その場で入札開始！スタート価格は500円から。

4. 見事落札されましたら、落札金額をご寄付いただきます。

残念ながら落札されなかったら・・・？出品した方が500円をご寄付いただき、品物はお持ち帰り下さい。

ただし、その後スワップミートに出すのはOKです。（オークションとは別に、いつものようにスワップミートも開催します）

もちろん、皆さんのお気持ちに甘えるばかりではありません。スタッフもそれぞれ「何か」を出品します。

何が出るかは、お楽しみに。

あの時、人へのダメージはもちろんですが、木の葉のように流されていく数多のクルマの映像にも本当に心が痛みました。

愛車を失ってしまった方も多いでしょう。

「たかがクルマ」「命があったんだからいいじゃないか」・・・

確かにそうですが、そう簡単に割り切れるものではないことも、わたしたちは知っています。

クルマを愛する者として、少しでも被災された方々の力になれないだろうか？そんな思いで開催するイベントです。

これまでとはまったく違う企画になりますが、できればいつもと同じように気楽においでいただき、のんびり山の空気を吸って、ついでにちょっと人助けをして帰っていただければ、と思います。

皆さんと今年もお会いできることを楽しみにしております！

(つのやまけーこ)

『駐車場は改善案検討中』

駐車場係の前田です。係員は昼夜を問わず、寝る間も惜しんで(笑)考えています…。「どうやったら皆さんの愛車を、安全かつキレイにそして素早く駐車場に並べることができるか？」と。毎年、傾斜のついたしかも朝露に濡れた牧草地で、タイヤが滑って思った所に止められないために、後方の方々にはお待ちいただく結果になっています。今年はその点を何とか少しでも改善出来ればと考えています…が、万が一、考えつかなかった場合には、是非皆さんの運転テクニックでフォローしてください。(ˆoˆ)／

たくさんのご来場お待ちしております。

(まえだ)

『あの日から・・・』

あれから4ヶ月が過ぎようとしています。今でもまだ、復興とは程遠い東北そして茨城、千葉の状況を見ると、何か出来るのではないか、いや何かしなくてはいけないのではないかと、苛まされる方も多いのではないのでしょうか。

自分は、3月下旬から6月半ば過ぎの間に都合3回、34日間ほど盛岡そして仙台に行きました。それはボランティアとか復興支援、災害派遣という重要でタイヘンな役目ではなく、仕事（損害保険会社のシステム要員です）の一環で現地スタッフのサポートに入るという、要するに出張として何人かの仲間と共に出向いたものです。（上司などは、昼は仕事で応援し、夜は夜の街で復興支援してこい！なんて・・・）そんな、あまり重たくない役目の自分も、この3度の出張に行く前から、行っている最中、そして応援体制が解かれた今になっても、やはり、自分が今すべきことは・・・とふと思うことがあります。

地震から丁度2週間経ったころ盛岡に10日ほど行きました。この頃の盛岡は、24時間営業のお店がようやく夜間営業を再開する準備を始める、そんな時期でした。夜の街も徐々に復興？しつつあり、昼間の盛岡を見る限りはあまり地震の影響を感じさせるものはなかったのですが、それはやはり北東北の中心な街の中心部に居たからこそその印象でした。クルマで数分も走ると、大きなショッピングモールの2階が避難所となっていましたし、駅前から宮古や陸前高田に向かうバス、そして東京方面に向かうバス乗り場は、連日長蛇の列でした。鉄道が壊滅状態でしたから、公共の足はバスに限られていたのです。自分も盛岡に入ったのは、羽田からの臨時便（羽田ーいわて花巻は定期便がありません）でした。帰る前日に訪れた一関では、まだまだ町のあちこちに壊れたままの家が残り、新幹線の橋脚が何箇所も工事中になっていました。

4月の半ばに仙台に入ると、街中の様子は以前旅の途中で訪れた時と大差なく、名物の牛タンもおいしくいただけました。ただ、一方で、仙台はやはり被災地のど真ん中なのだとということを、滞在数日で実感しました。

ニュース映像で何度と無く見た「荒浜」「閑上」「多賀城」「塩釜」という土地は、仙台の中心からクルマで30分も走れば行くことが出来る場所です。自分も何度か訪れる機会がありました。例えば、仙台の街中から、同じ仙台市内にある「四郎丸」という海岸線から数キロの場所へ向かうと、はじめのうちは田植え前の田んぼが大きく広がる、そんな車窓が続きます。が、ある地点を境に、泥まみれ・瓦礫まみれの土地が視界の限り広がり、道端には幾艘もの船が横たわっている・・・ポツンポツンと残っている建物やクルマは例外なく壊れており、時折きちんと並んでいるクルマを見かけるとそれは支援に駆けつけた自衛隊のクルマだったりしました。確かに、写真や映像では何度か見たはずの光景ですが、実際にその地に立ち感じたものは、うまくコトバにできないのですが、おそらく忘れることはないと思います。

多賀城市のお客さまを訪れた時は、幹線道路からそのお宅の前に至る道のほとんどが津波に洗われていたのですが、通った時はそれにまったく気づきませんでした。それくらい普通に家が並ぶ路地の奥にまで波が押し寄せていたのだと気づいた時は、ひどく動揺しました。帰り道に改めて確認すると、周囲の家はほとんどワタシの背丈くらいに壁の汚れが残っており、すなわちその地点まで波が上がって来ていたのですね。

一方、海の無い地域はあまり報道されていないのかもしれませんが、壊れたままの家、崩れたままの宅地がまだまだたくさんあります。これは6月の半ばに再び仙台を訪れた時も大きく好転はした様にはワタシには見えませんでした。4月に見た瓦礫の山はまだそのままでしたし、ワタシの背丈くらいの壁の汚れも大半はそのままでした。「やっと先週水道が通ったの」とうれしそうに話してくれたお婆さんの顔、多分忘れられません。

それでも、ニュースではショッピングモール再開を報じ、4月には閉まっていたお店が再開したり、徐々にではありますが、人々は前を向いて、明日を向いて今日を歩いている様になります。こんな時、被災していない我々は、何をどうしたらいいのでしょうか？恐らく正解は無いのだと思いますが、一つ確かに思うことがあります。それは、この復興は時間が掛かるだろうということ、そして、その間はずっと、被災されている方は24時間被災者なのだとということ。

自分には何が出来るのでしょうか、何をすべきなのでしょう・・・

『当り前でないこと』

3月11日の大地震の日、私はちょうど外出から帰宅して、娘のおむつ交換をしているところでした。じわじわした最初の揺れに「立ちくらみ？」と思った次の瞬間、激しい揺れが来てもう立っていただけませんでした。すぐに娘を背負い、外に飛び出しましたが、マンションの棟が倒れてくるかと思う程の揺れに生きた心地がしませんでした。

きっとみなさんも多かれ少なかれ、このような体験をされたのではないかと思います。横浜でさえこの揺れだったのですから、被災地に近い方は、激しい揺れやそれに伴う津波ともっともっと恐ろしい思いをされた事だと思います。被災された方に私が出来た事は限られていますが、被災地の復興を心から願って、募金や消費など、出来る事を精一杯やって行きたいです。息子は今年の七夕の短冊に「地震と津波の東北が早く元気になりますように」と書いていました。この願いが一日も早く実現するように願ってやみません。今年行われる、清里ミーティングのチャリティーオークションには家族で考えて被災された皆様にとって、よい支援になるものを出品できたら・・・と思っています。

それから・・・清里でみなさんに会える事ってとても幸せな事で、当たり前の事じゃないんだなあと感じさせられている今年の私です。清里でみなさんにお会いできるのを例年に増して、心待ちにしたいと思います。

(さっちゃん)

『清泉寮前泊のご紹介 と、編集後記』

昨年もちよつとご紹介しましたが、私たちスタッフは準備のためにイベント前日から現地入りして清泉寮に泊まっています。それは前日から会場準備が必要だってこともあります、当日朝に少しでも余裕を持って活動するためでもあります。

参加者の皆さんも当日の朝におうちを出て清里入りしている方も少なくないと思いますが、それでは清里ミーティングに出るのが精一杯でせつかくの清泉寮、そして周辺的环境に触れることなく終わってしまうわけで、ちよつともったいなくないですか？

今年は余裕があったら前泊してみませんか？特に清泉寮での宿泊であれば、当日朝もゆつくりできますよ。清泉寮での申し込み確認時に「ERFC清里ミーティング参加者」であることを告げれば、なにかいいお話があるかも。(交渉中です)

但し、昨年同様に ERFC で宿泊の取りまとめや部屋の確保は行っておりません。清泉寮への申し込みはそれぞれ個人でお願いいたします。

で、ほんとは今年から縮小しようか、それともいっそ宿泊前提のイベントにしようか、などと考えていましたが、今年には東日本大震災の発生もあって、私たちもあらためて例年通りの形でいられる喜びと、それでも何かをしたい、という思いが融合した形のイベントとして企画しております。午前中のイベントは大きく変わりますが、自慢の品を展示する(もちろん売らなくて結構！)「なんでも展覧会」や、チャリティーとは別にいつも通りに売り買いするための「スワップミーティング」は開催いたします。もちろんお弁当も。

是非またこの秋には清里でお会いしましょう。

(ERFC 清里ミーティング実行委員長 兼 編集担当：まめぞう)



ERFC Newsletter
ユー/スロードスターファンクラブ通信
2011 vol. 1 2011年7月20日発行

EUNOS ROADSTER FAN CLUB 事務局：埼玉県上尾市井戸木4-22-22 角山方
E-MAIL: info@erfc.sakura.ne.jp URL: http://erfc.sakura.ne.jp